

## イタイイタイ病の教訓を未来へ繋いでいくために

2月18日（日）、資料館2階交流学習ルームにおいて、開館以来6回目となる「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催し、約120名の方々に参加いただきました。

冒頭、石井知事より、関係者のこれまでの努力に敬意と感謝の意を述べられるとともに、「イタイイタイ病のような悲惨な公害が二度と起こらないよう努力していきたい。」と挨拶がありました。

続いて、未来を担う若者たちによる学習発表会では、富山市立山室中部小学校（5年生）、富山市立堀川小学校（5年生）、富山県立富山高等学校探究科学科（1年生）の皆さんより、資料館の見学を通して学習や研究した成果をパワーポイントを使用し発表していただきました。児童らの発表を通して、イタイイタイ病について熱心に学習されたとともに、公害の事実と教訓を後世にしっかりと引き継ぐことの重要性を改めて会場の皆様と感ずるものでありました。

さらに、資料館の鏡森館長による入館者状況やイベントなどの取り組みについての事業報告のあと、女優で国連開発計画（UNDP）親善大使として活躍されている紺野美沙子氏をお迎えし、「国連開発計画（UNDP）親善大使として、見たこと、感じたこと」と題しての記念講演を行いました。カンボジアなど多くの途上国を訪問し、多くの子どもたちが命を失っている現実を踏まえ、「我々、日本人は大変恵まれている。途上国の貧困や格差の問題にもっと関心を持つべき。」とお話されました。

会場の参加者からは、学習発表会での児童らの熱心さに対しての称賛の声が多かったのですが、「公害病自体を風化させないために、今後もフォーラムには多くの方々に参加いただきたい。」や「改めて、富山県が水に恵まれていることを実感した。」といった声もありました。



富山県知事挨拶



学習発表会の様子



鏡森館長による資料館事業報告



記念講演（紺野美沙子氏）

## 県外の大学生、見て聴いてイタイイタイ病の恐ろしさを学ぶ

3月2日（金）、金沢大学人間社会学域の学生ら12名が来館し、イタイイタイ病について学習しました。

学生らは、ガイダンス映像を視聴した後、展示室内を見学。その後、イタイイタイ病対策協議会顧問で、資料館の語り部でもある高木良信氏の講話を聴講しました。患者であった母親やその家族の苦しみ、当時、副会長として被害住民と共に裁判を闘ってこられた当時の状況等は、学生らにもしっかりと伝わっていると感じました。

その後、資料館の鏡森館長による講話では、イタイイタイ病と鉱業法など法的関係について学習し、真剣に耳を傾けメモをとっている学生の姿を見受けました。

学生らは、資料館の見学前にイタイイタイ病対策協議会の高木勲寛会長の案内によるフィールドワークとして、旧萩野病院の跡地や復元記念碑など神通川流域のイタイイタイ病に関する場所を巡ったこともあり、展示コーナーなどの見学の様子からイタイイタイ病についてより理解を深めているようでした。

このように、イタイイタイ病の教訓や先人たちの克服の歴史を後世に伝えていくことが資料館の使命と考えておりますので、今後も次代を担う若者をはじめ、多くの方々に来館いただくよう、様々な情報発信や工夫をこらした企画を行ってまいります。



展示コーナー見学



高木良信氏の語り部講話



鏡森館長による講話



熱心に学習している学生ら